

小長谷有紀著

モンゴルの二十世紀

モンゴルといえば、日本人は何を連想するだろう。大帝国を作り上げた英雄ジンギスカンか、見渡す限りの大草原で暮らす遊牧民か。最近では、朝青龍を筆頭にした大相撲力士たちの顔も浮かんでくる。だが、ソ連に次ぐ二番目の社会主義国家として成立し、十年ほど前に民主国家に生まれ変わったモンゴルが、どのような国なのか具体的に知る人は少ない。

本書は、モンゴルの著名人四人に長時間インタビューし、モンゴルの国造りと近代化がどのように進んできたかを語ってもらった、その記録である。

一九二九年に遊牧民の家に生まれ、十七歳でようやく勉強を始めたのがダムディン氏だ。苦学してモスクワに留学した後、二十九歳で産業大臣に就任し三十年間その地位を保ち、産業振興の立役者になった。

日本の明治維新を彷彿とさせる物語があふれている。地図や写真を多用すれば理解が深まった。(中公叢書、1700円)

評者・榎野 信治 (本社論説委員)

読賣新聞 2004年 10月 10日